



# ひるの星

No. 236

|  |         |
|--|---------|
| もくじ  |         |
| バハオラの <sup>ことば</sup> 言葉                      | .....2  |
| 言葉の <sup>ことば</sup> 意味 <sup>いみ</sup>          | .....3  |
| おきなわ <sup>はな</sup> の <sup>はな</sup> お話し       | .....6  |
| クイズ  | .....9  |
| てん <sup>え</sup> 点 <sup>え</sup> でなぞる絵         | .....10 |
| と <sup>とり</sup> つ <sup>つく</sup> く<br>飛ぶ鳥を作ろう | .....11 |
| サマースクールの <sup>しゃしん</sup> 写真                  | .....14 |
| サマースクールのアート                                  | .....15 |
| りょうしん <sup>両親</sup> のページ                     | .....16 |



しんれい こ  
「おお心霊の子よ！

なんじ かご  
汝の籠を

やぶ  
ずたずたに破れ。

そして

あい ふしちよう ごと  
愛の不死鳥の如く

せい てんくう  
聖なる天空に

ま あ  
舞い上がれ。

なんじ じしん す  
汝自身を捨てよ。

そして

こころ  
心もて、

てんじよう せい  
天上の聖なる

こくど す  
国土に住め。」

バハオラ

## ことば りかい バハオラの言葉を理解する

ここでバハオラは私<sup>わたし</sup>たちを「心<sup>しん</sup>霊<sup>れい</sup>の子<sup>こ</sup>」であると呼<sup>よ</sup>んでいます。それは私<sup>わたし</sup>たちの心<sup>こころ</sup>（魂<sup>たましい</sup>）は神<sup>かみ</sup>様<sup>さま</sup>の精<sup>せい</sup>神<sup>しん</sup>世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>から来<sup>き</sup>ているからで<sup>なんじ</sup>す。「汝<sup>なんじ</sup>の籠<sup>かご</sup>」とは、私<sup>わたし</sup>たちのわがま<sup>わがま</sup>まを鳥<sup>とり</sup>かご<sup>たご</sup>に喩<sup>よ</sup>えています。不<sup>ふ</sup>死<sup>し</sup>鳥<sup>ちょう</sup>は私<sup>わたし</sup>たちの心<sup>こころ</sup>（魂<sup>たましい</sup>）で<sup>なんじ</sup>す。魂<sup>たましい</sup>は永<sup>えい</sup>遠<sup>えん</sup>に生<sup>い</sup>きるから不<sup>ふ</sup>死<sup>し</sup>鳥<sup>ちょう</sup>の<sup>よう</sup>様<sup>よう</sup>で<sup>なんじ</sup>す。「汝<sup>なんじ</sup>自身<sup>じしん</sup>を捨<sup>す</sup>てよ」とは、私<sup>わたし</sup>たちのわがま<sup>わがま</sup>まをなくすよう<sup>よう</sup>にするというこ<sup>もど</sup>とで<sup>さいこう</sup>す。そうすれば私<sup>わたし</sup>たちの心<sup>こころ</sup>は神<sup>かみ</sup>様<sup>さま</sup>の精<sup>せい</sup>神<sup>しん</sup>世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>に<sup>もど</sup>戻<sup>もど</sup>って最<sup>さい</sup>高<sup>こう</sup>の<sup>さいこう</sup>幸<sup>こう</sup>福<sup>ふく</sup>をつか<sup>く</sup>むので<sup>く</sup>す。





## □おきなわ こども はなし □沖縄の5人の子供のお話

ある日アスマがペットの亀を入れたお椀を持って悲しそうに台所に入  
って来ました。その亀は動いていませんでした。他の5人の子供が見守  
る中でお母さんがその亀の様子を調べ始めました。そして残念そうに  
言いました。「この亀はもう動かないと思うわ。」「なんだって!」とア

スマが叫びました。彼はどんな動物にも優しい子でした。そばにいた 弟 のリ

アズがぶっきらぼうに言いました。「お母さんはその亀が死んじゃっ

てると言ってるんだよ。わかんねえのかよ。」と。女の子たちもか

なりがっかりして、たずねました。「亀さんはどうなるの、お母さ

ん?」「おじいちゃんのように亀さんも天国に行っちゃうの?」「亀さんにもち

ゃんと天国ってあるの?」お母さんはため息をついて、きれいな布に亀を包み

ました。そしてそれをアスマに手渡して言いました。「このかわいそうな亀さん

を埋めた後で亀さんの死後の世界について、お話ししようね。」

皆で庭に小さな穴を掘って、亀を入れて土をかぶせました。シャラとアニサが

その上に花を供えました。皆がその様子を見てみると、お母さんが話を始めま

した。「動物にも動物の精神があつてね、亡くなると動物の精神世界に戻って行

くだよ。どんな動物だったか区別がつかなくなるとバハオラは言われているの。

そうね、こう考えるといいわね。皆は、大きなボールのような粘土のかたまり

をちぎって、ちっちゃな猫や亀をつくったことあるでしょ。動物は亡くなると



その大きな粘土のかたまりのような世界に戻って行くと思えばいいわ。そうすると猫とか亀とか区別がつかなくなるものね。」すると、モナがききました。「それじゃあ、おじいちゃんもそんなになっているの?」。「いいえ、そうではないのよ。これはバハオラの書物から教わったんだけど、人間は人間の精神世界に戻って行くのよ。人間には神様とか神様の顕示者を知ることが出来る人間だけの精神があるのよ。この精神は魂と呼ばれているの。皆がお母さんのお腹で赤んぼになると、そこに魂が神様の世界からやって来るのよ。それから地球上に住んでいる限り、魂が神様の教えを学ぶことを神様は望んでいらっしゃるの。人も動物も植物もみんないつかは亡くなってしまふのよ。」するとリヤズが「おじいちゃんのように?!」と叫びました。「そうよ、おじいちゃんのようにね。」とお母さんが言いました。「人間の魂はそれぞれに精神世界に戻って神様に近くのように永遠の旅を続けるのよ。次の世でもおじいちゃんは、いつまでも皆のおじいちゃんのままているのよ。」「それじゃ、おじいちゃんはおぼたちのこと覚えているかしら?」とモナがたずねました。「もちろんよ。」とお母さんが答えました。「おじいちゃんは、この世で生きている間のことはみんな覚えているでしょうね。おじいちゃんは周りの人たちに何をしたかを覚えているのよ。周りの人にした良いことはおじいちゃんの魂を喜ばせるだろうし、わるいことは悲しませると思うわ。」次にシャラが言いました。「私ね、思い出すのよ。おじいちゃんがここに来てね、皆と”SORRY”(残念でした)というゲームをして私が勝ったのよ!」みんな笑いだしました。お母さんが説明しました。「その頃のこと

おも だ  
を思い出すことは、おじいちゃんをきつと喜ばせると思うよ。だっておじい  
ちゃんみなは皆のかわいことをとつても可愛がっていたんだもの。家族愛がどんなに大切か  
つぎ よ みな 次の世だつて皆にもわかつてくると思うよ。」

「それからね、死ぬしということは、鳥とりが鳥籠とりかごから飛び立つとときと同じように考  
えればいいのよ。私わたしたちの魂たましいが鳥とりで、体からだが鳥籠とりかごなのね。この鳥とりはみんな天高く  
神様かみさまがいらっしゃる天国てんごくに向かつて舞まい上がるのよ。天国では私わたしたちがこの世  
で愛あいしたすべての人々ひとびとに会あえるのよ。もう一つの例れいを言いうとね、お母さんかあのお腹  
にあかいる赤ちゃんかかんがのことを考あかえてごらん。赤ちゃんめの目みみや耳てあしそれに手足あしができて  
くるわね。お母さんかあのお腹なかの中では、それらなは必要ひつようかしら？でもお腹はらから出で  
きたら必要ひつようになるでしょう？もしこまなかつたら困おなるものね。同じように魂たましい だつて  
精神せいしん的な手足てあしがないと困こまるのよ。その手足てあしとはどんなものかわかる？」「あつ、  
それ、俺おれし知きまってるよ。気前きまえがいいことでしょ！」とリアズいが言いいました。それ  
は彼かれの長所ちようしょでもあります。「正義せいぎ！」とアスマさけが叫きびました。アスマがいお気に入  
りの美徳びとくです。「責任感せきにんかん！」と今度こんどはモナさけが叫つづびました。続つづいてシャラは「親した  
みやすさ！」得意さいごの美徳すえを言こいました。最後がまんに末つよっ子で、いつも我慢強がまんいアニ  
サが「我慢がまん！」と叫さけびました。「そうね。」お母さんかあが言いいました。「これらはみ  
んな次の世つぎで私わたしたちが必要ひつようとする精神せいしん的な手足てあしなのよ。神様かみさまの近くちかに行くため  
に必要ひつようなのよ。亀さんかめのお話はなしは、これで終おわり。地球ちきゅう上に住すむ生き物いについて知  
ることは、神様かみさまのことを学まなぶいいチャンスなのよ。この小ちいさい亀さんかめだつて私わたし  
ちにどうやつてお世話せわするのまなか学まなばせてくれるの。責任感せきにんかんや気前きまえよさとか優やさし

わたし たましい しごと かあ なか ちきゅうじょう  
さとかね。私 たちの魂 の仕事もお母さんのお腹にいるときから、そして地球上

はな かみさま ちか えいえん つづ  
を離れてからも神様に近づけるように永遠に続くのよ。」

5にん だま すわ ぜんねん な  
5人はしばらく黙って座っていました。 前年におじいちゃんが亡くなったと

うた うた くち ひら つぎ うた はじ  
き歌った歌を、まずリアズが口を開き、次にシャラそれからみんなで歌い始め  
ました。

われ かみ くに き  
我らみんな神の国から来たり

かればいつかは神の国に帰らん

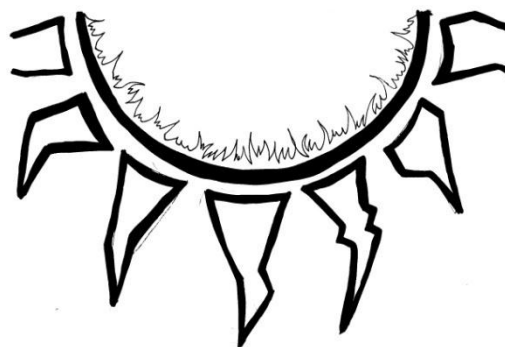
かわ たいよう なが つ  
河が大洋に流れ着くように

よう たいよう もど い  
陽ざしが太陽に戻って行くように

われ かみ くに き  
我らみんな神の国から来たり

かればいつかは神の国に帰らん

かればいつかは神の国に帰らん



## クイズ

1. 「しんれいのおお心こ霊の子よ」とかみさま神様が呼ばれているのは誰のだれことですか？

---

2. 「なんじのかご籠をやぶずたずたにな破れ」とは何を意味するのでしょうか？

---

3. かみさま神様にちか近づくには、何のなんどんなとり鳥になればいいのでしょうか？

---

4. じひ慈悲のこころ心でみ満たすとわたし私たちはどこにす住むことになるのでしょうか？

---

5. おきなわ沖縄のにん5人のこども子供のお話で亡くなったはなしペットは何でしたか？

---

6. にん5人のこども子供のかぞく家族で最近さいきん亡くなったのは誰だれですか？

---

7. かあお母さんがせつめい説明したちきゅうじょう地球上のどうぶつ動物のしごと仕事は何でしたか？

---

8. かあお母さんがい言ったわたし私たちのしごと仕事は何でしたか？

---

9. まいそうペットをまいそう埋葬したあと後、こども子供たちは何をなにしましたか？またしご死後のせい生について何なにをお母さんかあからき聞きましたか？

---



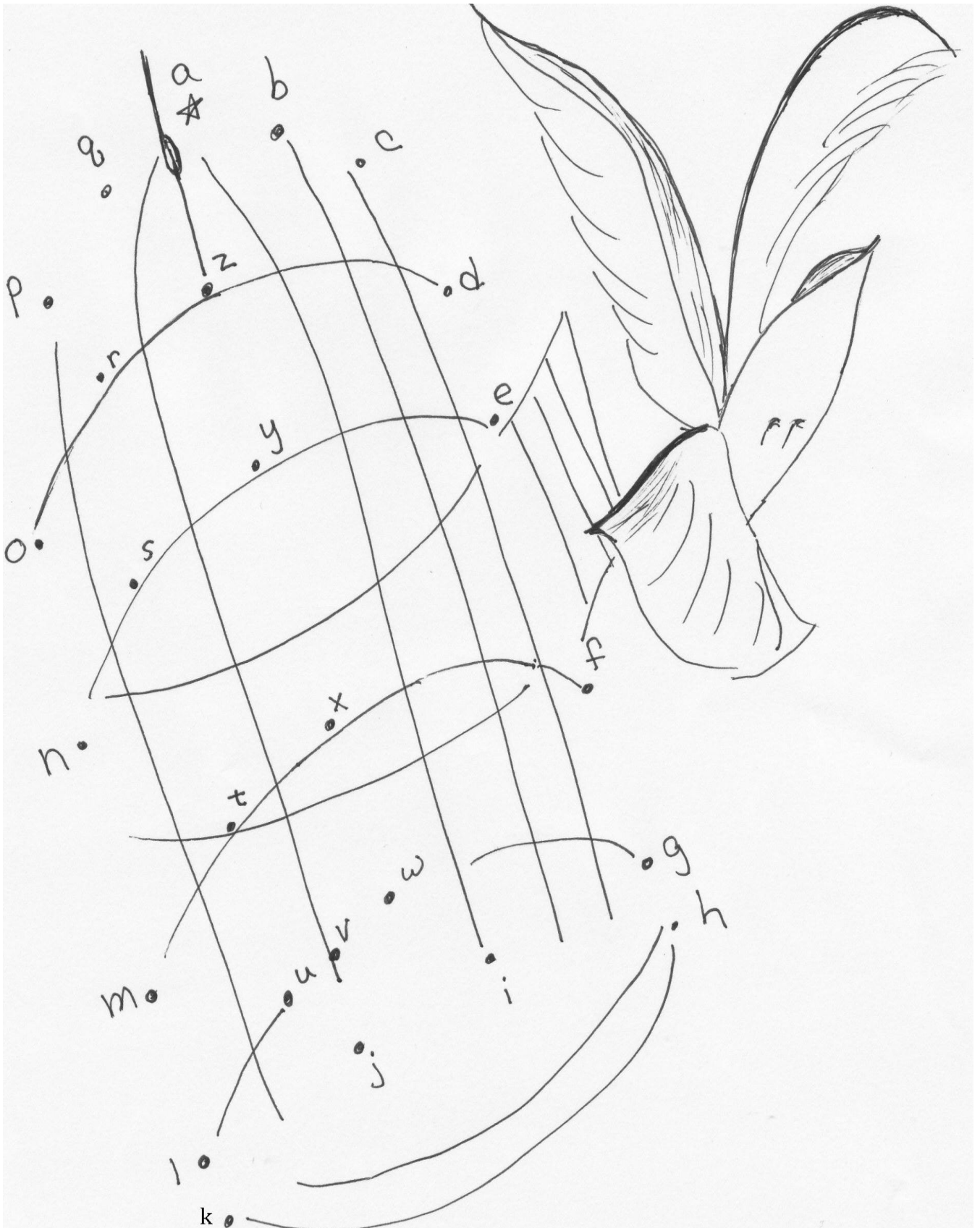
どう？全部ぜんぶ答えこたられましたか？答えは両親りょうしんのペー

ジにあります。



てん え  
点でなぞる絵

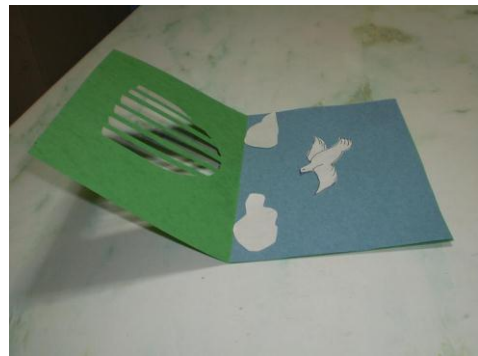
じゅん てん  
ABCの順に点をつなごう。



とり かご なか そら と とり  
鳥籠の中の空飛ぶ鳥のカード



開かれたカード



とり かご なか そら と とり まわ え  
鳥籠の中の空飛ぶ鳥の回し絵

とり かご つく かた  
鳥籠の作り方

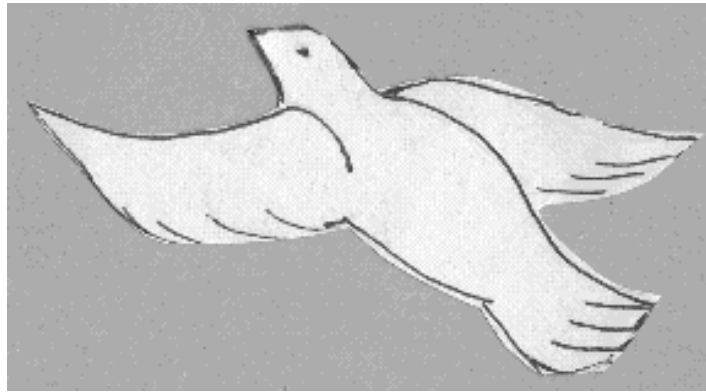
1. A4サイズの青一枚と違う色一枚のカラーコピー用紙、白の普通紙一枚を用意します。
2. 青一枚を半分に切ります。
3. 白の普通紙に鳥を自分で描くか他の絵からなぞって、その絵を切り取る。
4. 白い雲もいくつか描いて切り取る。
5. 青ではない色の模造紙を半分に折る。
6. 半分の片方のややいっばいに鳥籠を描き、約5mm幅の骨柱を5、6本残して鳥籠の中  
がのぞけるようにカッターで切り取る。危ないので大人に手伝ってもらおうと良い。
7. 残りの半分に青（空になる）の半分を貼り付ける。

8. 鳥籠をのぞいても見えないように雲を青の半分の上部に貼り付ける。

9. 鳥を鳥籠の中心にくるように青(空)に貼り付ける。このとき鳥の裏に1cm×4cm

の長方形の紙を丸めて円柱にしたものを付けると立体的になっておもしろい。

10. 鳥のまわりに引用文を書くと良い。このとき鳥籠の外になるように注意する。



空飛ぶ鳥の回し絵の作り方



裏と表



1. 白い紙に1羽の鳥を描く。図一のように表は羽を広げ、裏は羽を閉じた姿にする、

2. 青い模造紙で同じ大きさの円形を2枚つくる。2枚を糊づけし、表には羽を広げ

た鳥を、裏には羽を閉じた鳥を逆さに糊づけする。

3. 裏は鳥籠の骨柱を鉛筆で描く。

4. 円形の両端にそれぞれ長さ50cmくらいの細いゴムひもを通し、輪ゴムにする。

5. それぞれ輪ゴムの端を手を持ち、「なわとび」のようにして鳥の絵を回す。もつれ

た輪ゴムに勢いがついたところで、両手を開くようにして輪ゴムを横に引っ張る。

おも で  
思い出のサマースクール





サマースクールに<sup>さんか</sup>参加出来な<sup>でき</sup>なかったお友達のみなさん、<sup>ともだち</sup>ウィンタースクールで<sup>あ</sup>ぜひ会いましょう！

<sup>たの</sup>楽しみに<sup>ま</sup>待っています！

さくひん  
サマースクールの作品



## 両親のページ

子供は5才くらいになると死について大変興味をもつようになります。死について話すことは避けられません。誕生と同じくらい死について話すことは大事です。このとき死を恐れないように教えることは、とても大事です。仏様のお話に死について興味深い、こんなお話があります。裕福な家に嫁いだ、ある婦人に男の子が生まれました。彼女はもちろん家中の皆が、この男の子を可愛がりました。でも残念なことにこの男の子は幼くして亡くなってしまいました。死んだ我が子を背に、この哀れな婦人は誰かこの子を生き返らせてくれる者はいないかと狂ったように捜して歩きました。噂を聞いて、とうとう仏様のところにやって来ました。彼女は自分の身に降りかかったことを一部始終仏様に話してお願いしました。彼女の願いを叶えるには、家族に死人が出たことのない家を見つけることだと仏様は彼女に告げました。彼女は言われたとおり早速捜してみました。しかし、そんな家は一軒も見つかりませんでした。そこで、やっと彼女は自分の置かれた状態を悟りました。そればかりか自分よりもっとひどい状態にある家族も知りました。そのことを考えると自分の問題なんか忘れてしまう程でした。

生と死については「質疑応答集」でアブドルバハが説明されています。これからも子供に教えることができます。それから「かくされたる言葉」からバハオラの次の言葉を紹介するのも良いでしょう。「われ死を汝への歓びの使者とした。汝いかなれば死を悲しむや、…」他にはルヒブック1に生と死についての疑問に答える、素晴らしい説明があります。

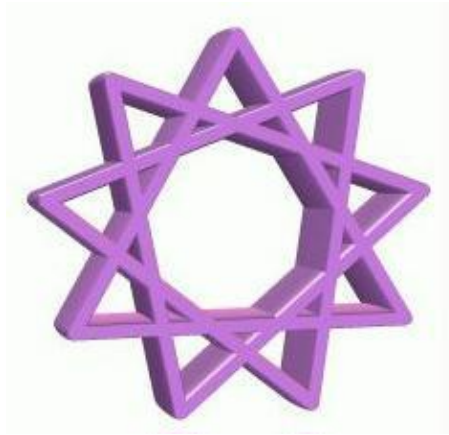


以下のサイトはこのテーマに一致した美しい音楽の伴ったスライドとなっています。子供たちに紹介してみるのもよいかもしれません。

<http://jp.youtube.com/watch?v=dU4eUEidG8A>

### クイズの答

1) 私たち人間のこと、2) 「下さい、下さい」と欲しがる、わがママを捨てること。3) 愛の不死鳥のように神様を愛する鳥になる、4) 神様の精神世界に住むことになる・5) 亀、6) 子供たちのおじいさん。7) 生き物をお世話する仕方を教える仕事。8) 生き物をお世話する仕事から学ぶ奉仕の仕事。9) 亡くなった亀を埋めた土の上に花を供えた。



皆さんのお子様のバハイ活動でみんなに役に立つ  
いいお話、又は写真などがあれば、送ってください。  
vb7mb7@bma.biglobe.ne.jp に送ってください。

## ほし ひるの星

№. 236

2008年12月発行

ひるの星をカラー印刷するには以下のリンクにアクセスしてください。

<http://www.msu.edu/~mayerni2/HnoH.htm>

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目2番13号

電話：03-3209-7521 FAX：03-3204-0773

ひるの星委員会：平原静志、平原ルアナ、マックティアー・理恵

### 協力

和訳：ブレイ和子、平原静志、平原朝真、

写真：スザン・アレン、ホマユン・レザ

表紙：ダリル・マード

絵：ラリー・カーティス、サマースクールの子供たち、平原ルアナ、

ダリル・マード、サナ・マジズーブ

テクニカル・アドバイザー：メイヤー・ニコラス、平原朝真

監修：平野祐一